

令和4年10月7日

第3学年保護者の皆様

境港市立第二中学校

校長 下西 三宝

全国学力・学習状況調査について

秋冷の候、保護者の皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、この度、4月19日に実施した「全国学力・学習状況調査」につきまして、本校および境港市教育委員会事務局で分析・検討したものを配布いたします。この内容は、本校HP及び境港市教育委員会HPにも公開されます。また、文部科学省のHPにもこの調査に関するポイントや概要が公開されています。

今回の調査結果をもとに校内で十分に検討いたしまして、今後の学習指導・生活指導をより充実させると共に、ご家庭の協力を得ながら、学力の向上、よりよい学校づくりにいかしていきたいと思っております。

なお、個人票（各個人の設問ごとの正答や誤答の状況などがわかるもの）につきまして、も生徒に返却いたします。

*この調査の結果は成績や高校等の入学試験とは一切関係ありません。

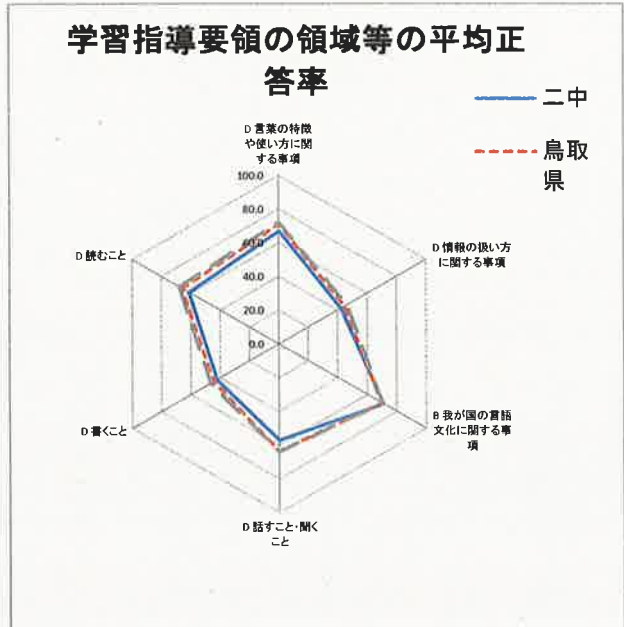
令和4年度 全国学力・学習状況調査 結果 国語

境港市立第二中学校

【集計結果】

【評価について】 A：全国平均との差が+3%を超える B：全国平均と同等から+3%まで
C：全国平均との差が-3%まで D：全国平均との差が-3%を下回る

分類	区分	国語			評価
		平均正答率 (%)			
		二中	鳥取県	全国	
	全体	65.0	68.0	69.0	D
学習指導要領の領域	言葉の特徴や使い方に関する事項	67.1	71.1	72.2	D
	情報の扱い方に関する事項	42.3	44.6	46.5	D
	我が国の言語文化に関する事項	70.9	69.8	70.2	B
	話すこと・聞くこと	56.8	63.5	63.9	D
	書くこと	42.3	44.6	46.5	D
	読むこと	61.3	66.1	67.9	D
知識・技能	知識・技能	65.8	68.1	69.0	D
	思考・判断・表現	55.9	61.2	62.3	D
	主体的に学習に取り組む態度	—	—	—	—
問題形式	選択式	71.6	72.9	73.7	C
	短答式	67.3	69.5	70.3	C
	記述式	48.8	55.8	57.4	D



【分析】

「言葉の特徴や使い方に関する事項」は全国平均に比べて5%低いですが、最も顕著なのが、「話すこと・聞くこと」及び「思考・判断・表現」に関わる、スピーチの工夫について、記述式で答える問いである。また、「知識・技能」に関わる、助動詞の働きや表現技法の理解について課題が見られる反面、文脈に即した漢字を書くことについての理解は良さが見られる。

「情報の扱い方に関する事項」は全国平均に比べて4.2%低いですが、「書くこと」及び「思考・判断・表現」に関わる、資料から情報を引用し、書き加える、記述式で答える問いの結果のみの数値である。

「我が国の言語文化に関する事項」は全国平均に比べて僅かに高いが、「知識・技能」に関する、行書の書き方についての理解が良いことが挙げられる。

全体を通して、記述して答える問いに対して、無回答や正答率の低さが見られる。

漢字など、答えが単発的で明確なものは得意だが、文章を主観的に読んでしまいがちで、意図に沿った答えを導くことが難しい。

【今後の取組】

- ・ 反復練習をしながら、既習事項の知識の習得を確実にする。
- ・ 様々な言葉に触れたり意味調べをしたりしながら語彙を増やす。
- ・ 説明文では構成や接続語などに、物語文では描写や心情の変化などに注目しながら、根拠を持って、読みを深める取組を行う。
- ・ 文章を多く読み書きする等、ある程度の時間で、情報を整理しながら読む・書くことに慣れる。
- ・ 読解力や論理的思考は、他教科においても必要不可欠であり、各教科の特色に応じた学習活動の中で取組をすすめる。

「生徒質問紙より」

言葉を文字としてだけでなく、その背景を含めて理解していくことで、日常生活の事柄や自身の思考がより豊かになっていくことを資料等を通して知り、適切に言葉を読み取り使っていくことが、社会生活において大切であることを身近なものから提示していきたい。

令和4年度 全国学力・学習状況調査 結果 数学

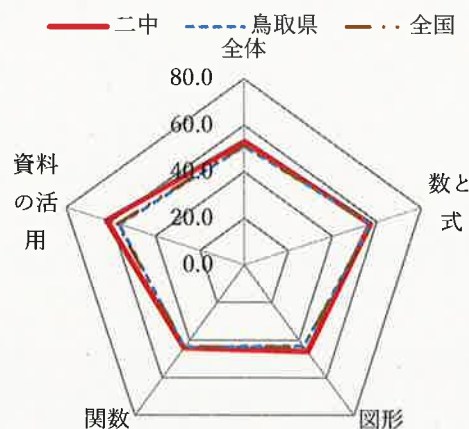
境港市立第二中学校

【集計結果】

【評価について】 A：全国平均との差が+3%を超える B：全国平均と同等から+3%まで
C：全国平均との差が-3%まで D：全国平均との差が-3%を下回る

分類	区分	数学			評価
		平均正答率 (%)			
		二中	鳥取県	全国	
全体		53.0	51.0	51.4	B
学習指導要領の領域	数と式	56.9	57.1	57.4	C
	図形	46.0	43.2	43.6	B
	関数	44.1	43.5	43.6	B
	資料の活用	62.0	56.3	57.1	A
評価の観点	知識・技能	63.5	60.1	59.9	A
	思考・判断・表現	33.8	34.8	36.2	C
	主体的に学習に取り組む態度	—	—	—	—
問題形式	選択式	58.8	53.5	52.6	A
	短答式	67.3	65.4	65.7	B
	記述式	33.8	34.8	36.2	C

学習指導要領の領域等の平均正答率



【分析】

全体的に、全国平均を上回る結果となった。領域別で見ると、「資料の活用」の平均正答率は全国より約5%高かったが、「数と式」では少し低い結果となった。また、全体的に説明を要する問題の正答率が低い傾向にあり、観点別で見ると、「思考・判断・表現」で約2%低かった。具体的には、「数と式」では整数問題（偶数の和）を扱った問題で、正答率が低かった。「関数」では与えられたグラフから、必要な情報を適切に読み取る問題の正答率は高いが、変化の割合を扱った問題の正答率が低い傾向にあった。「図形」では、証明の根拠として用いられている三角形の合同条件は理解しているが、筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明する問題の正答率は低い。

【今後の取組】

「数と式」の領域の「思考・判断・表現」を高めるために

- ・ドリル学習をするなど計算量を増やすとともに、関連する既習内容の復習をする。
- ・数学の苦手な生徒には、基本の計算問題を中心に組み立てるようするなど、自己解決力を促す課題設定をする。

「図形」の領域の「思考・判断・表現」を高めるために

- ・生徒同士で挑戦したり、解決したりする授業や課題設定を工夫する。
- ・関連する既習内容を復習する機会をつくる。

「生徒質問紙」より

数学の勉強は大切で、将来社会に出た時に役に立つと考えている生徒が9割近くいるので、授業ではあきらめずにいろいろな方法を考えたり、公式の成り立ちや分けを追求したり、普段の生活で活用したりできないか考える機会を増やしていきたい。

令和4年度 全国学力・学習状況調査 結果 理科

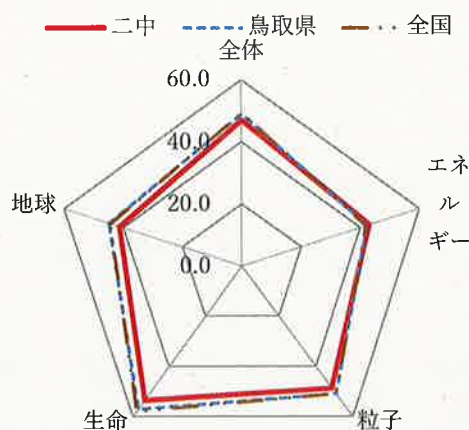
境港市立第二中学校

【集計結果】

【評価について】 A：全国平均との差が+3%を超える B：全国平均と同等から+3%まで
C：全国平均との差が-3%まで D：全国平均との差が-3%を下回る

分類	区分	理科			評価
		平均正答率 (%)			
		二中	鳥取県	全国	
全体		47.0	49.0	49.3	C
学習指導要領の領域	エネルギー	43.0	42.2	41.9	B
	粒子	48.7	50.9	50.9	C
	生命	53.5	57.0	57.9	D
	地球	41.3	44.8	44.3	C
評価の観点	知識・技能	46.1	46.7	46.1	B
	思考・判断・表現	47.8	50.6	51.0	D
	主体的に学習に取り組む態度	—	—	—	—
問題形式	選択式	48.4	49.9	49.6	C
	短答式	25.4	26.2	24.8	B
	記述式	48.2	52.1	53.5	D

学習指導要領の領域等の平均正答率



【分析】

領域別で見ると、各領域ごとの差が大きいように見えるが、「思考・判断・表現」の出題だけの「生命」領域の正答率が低くなり、「知識・技能」の出題の割合が高い「エネルギー」領域の正答率は他の領域に比べて高くなっている。「思考・判断・表現」の正答率が低いことが課題である。具体的には、地層の傾きを空間的な広がりとして捉えて解釈する問題や、実験結果が予想と違うときにその原因を分析する問題の正答率が特に低くなっている。また、語句で答える問題（短答式）の正答率は全国比よりわずかに高いものの、記述式の問題では正答率が低く、無解答率が高い。自分の考えを言葉で説明する力を伸ばしていく必要がある。

質問紙の結果を見ると、「観察や実験の結果をもとに考察している」「観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えている」生徒の割合が全国比に比べて4～6%低くなっていて、改善していく必要がある。

【今後の取組】

「思考・判断・表現」を高めるために

- ・「思考・判断・表現」の元となる基本的な法則や原理・基本用語の定着を図り、既習事項の復習を定期的に行う。
- ・実験や観察において、現象を確認するだけにとどまらず、絵やモデル・言葉を駆使して、実験等で確認した現象がどのように起きているか、なぜそうなるのかなどを説明する機会を設定し、生徒同士で説明し合ったり考えを深め合ったりする場面を増やす。特に、生徒同士で説明し合うことで、理科が苦手な生徒にも説明の仕方を学んだり基本事項を確認したりする機会につながると考える。
- ・理科で学習した内容を、日常生活の中で生かしたり活用したりできるように、身近な場面と結びつけるような課題設定を行う。

「生徒質問紙」より

- ・これまで、実験レポートにおいて考察して記述する取組をしていて、記述量が増えているようすが見られる。今後、うまくいかなかったときの原因や改善の工夫を考察する場面を意図的に設定していく。

【満足いく結果のもの】

質問事項	選択肢	二中	全国
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	している どちらかといえばしている	94.4	92.2
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	当てはまる どちらかといえば当てはまる	91.5	96.4
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	当てはまる どちらかといえば当てはまる	94.5	95.0
友達と協力するのは楽しいと思いますか	当てはまる どちらかといえば当てはまる	90.0	93.7
1, 2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか	週3回以上	88.8	50.9
学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか（インターネット検索など）	週3回以上	87.3	37.2
学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか	そう思う どちらかといえば、そう思う	90.1	93.6

【課題があるもの】（全国と比べて差の大きいもの）

質問事項	選択肢	二中	全国
【自分と生活習慣に関すること】			
携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか	守っている だいたい守っている	59.1	69.5
普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか	3時間以上	43.7	29.8
普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）	3時間以上	41.1	29.5
将来の夢や目標を持っていますか	当てはまる どちらかといえば当てはまる	60.6	67.3
自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか	当てはまる どちらかといえば当てはまる	77.5	86.6
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	2時間未満	76.1	64.7
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	2時間未満	71.9	55.1
【自分と学校生活に関すること】			
1, 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	発表していた どちらかといえば、発表していた	53.6	63.3
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	当てはまる どちらかといえば当てはまる	60.6	72.1

【分析と今後の取組】

《分析》

- ・就寝・起床時間等の基本的な生活習慣については、ほぼ定着し、落ち着いた生活を送っているように思われる。
- ・友達と協力することが楽しいと感じていて、友達が困っているときに進んで助ける生徒の割合も比較的高く、いじめを許さない意識も高い。
- ・物事を前向きにとらえる生徒の割合が比較的多く、自分を生かし、人や地域の役に立とうとする気持ちをもっている。
- ・授業では、調べ学習等で活用の割合が高く、ICT機器を使うことは勉強の役に立っていると生徒自身感じている。
- ・家庭学習の項目を見ると、平日の勉強時間が2時間未満の生徒の割合が全国に比べ10%高く、土日においてもその割合は17%に至る。テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）、SNSや動画視聴（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）の時間が3時間以上の生徒の割合も、全国に比べ10%以上上回っている。このことから、全体的に勉強時間が少なく、自分で計画を立てて勉強できている生徒の割合も全国に比べ低い。
- ・地域の行事等に参加する機会は少なかったが、地域や社会をよくするために何をすればよいか考えている生徒の割合は増加した。一方で地域の方に勉強やスポーツを教えてもらったりしたことがある割合は、全国より少し上回ってはいるが、25%位であった。
- ・授業での話し合う活動では、人の話を聞くことはできているが、自分の考えをまとめ、伝えたり、発表したりすることが苦手である。

《今後の取組》

【自分と生活習慣に関すること】

- ・起床時間が安定していることは、基本的な生活習慣のためには大切な要素である。しかし、登校の様子を見ると、遅く登校してくる生徒が固定化している傾向がある。個々に声掛けをしながら、家庭とも連携を図っていきたい。
- ・平日の生活の中で、3時間以上メディアに触れたりやゲームをしたりしている生徒が半数近くいることは、大きな課題である。これまでも家庭と現状を共有しながら改善に向けて取り組んできたが、家庭と連携を図りながらメディアに費やす時間を減らして学習時間を確保するように、生徒への呼びかけを行っていきたい。

【自分と学校生活や学習に関すること】

- ・家庭学習の充実を図るには、授業との連携が不可欠である。予習をして自分でノートを作る取り組みなど、家庭学習を前提とした授業づくりを行っていきたい。また、既習事項の復習のために、副教材や学習プリントを活用した家庭学習の取り組みも進めていきたい。
- ・ICTの活用は進んでおり、学習場面での活用ができていると考えられる。休憩時間の使い方など課題は見られるものの、授業の中で自分の考えを深めたり、説明したりするツールとして活用できるように努めていきたい。
- ・「人の役に立ちたい」「協力するのは楽しい」などの割合が高い反面、「将来の夢や目標を持っている」「やると決めたことはやり遂げる」と答えた生徒の割合が低い。学校行事や学級活動の場面を活用して、協力してやり遂げる体験をさらに充実させたい。また、進路学習では単に進学先を考えるだけでなく将来の生き方について考えを深める場面を設定していきたい。